

訪問先施設からの事業所評価の集計（公表）

公表日 令和7年3月25日

事業所名 伊豆市児童発達支援センター

1. 連携してよかったことはありますか。

- ・ 併行通園児がどのような目標や課題をもって取り組んでいるのか共有できたことで、園での課題が見えやすかった。困った事に対して助言を頂き、保育の中での問題解決につながった。
- ・ 連絡ファイルで情報交換することで、児童発達支援センター（以下おひさま）での様子を知る事ができた。また、援助を必要とする部分や課題を違った視点で気づくことが出来たり、支援方法を試してみたりとより子どもの成長につながっていると感じた。行事に向けて支援方法等を聞くことが出来てよかった。
- ・ 併行通園児のおひさま、園での様子の違いを知り、また違った一面を知るヒントになりました。具体的で有効的な関わりの方法を知る事で保育の参考になりました。
- ・ 生活面の中で、同じ進み方で進められた。おひさままでの様子を伝えてもらうことで、どのくらい進んでいるか等、園児の様子や取り組んでいることを知ることも出来た。
- ・ 同行したことでおひさまの支援方法を知る事ができた。週のねらい、長期のねらいの立て方やスモールステップの進め方を学ぶことができた。生活面の援助で同じやり方で園も援助をしていくことが出来た。
- ・ 併行通園する中で園での様子を伝え、おひさまにて一緒に過ごすことで同時に進めることが出来た。
- ・ 支援方法を学ぶことが出来た。園の保育援助を見てもらうことで、的確な援助方法を共有することが出来た。

2. 連絡会や保育所等訪問後こども園等では、どのような形で共通理解をはかりましたか。

- ・ 職員会議や朝礼等の時間を使って報告し、対応の仕方について共有した。
- ・ 職員会議、支援会議、夕方の打ち合わせ、学年間での話し合い等で共通理解を図っている。
- ・ 職員会議や日々の反省会等で情報共有をしている。
- ・ 職員会議で園児の支援方法を伝達し、共有理解した。

3. その他

- ・ 就学に対する保護者の考えとおひさまを利用する目的との違和感をおぼえる部分があった。
- ・ 困り感のある児への声の掛け方、援助方法を学ぶことが出来、園でも声掛けや援助方法の工夫をする事ができた。個別活動の指先を使う玩具等参考になった。
- ・ おひさまでの支援方法や援助を見て、自園で困り感を持っている子に対してもその支援方法を生かすことが出来た。また、同行職員の意識も変わったと感じる見立てや声掛けがあった。子どもに対しての保育教諭の関わりが1年を通して個に寄り沿っていると思われることも多くなっていった。
- ・ 同行支援をする中で、自分自身も勉強できた。園にて他児の対応で応用し活かすことも出来た。併行通園児もじっくり遊ぶことができ、遊びが豊かになり、いろいろなことに挑戦してみようと思う気持ちが芽生えた。
- ・ センター長をはじめ、先生方には、併行通園児以外の園児のアドバイスをしてもらう事で、保育に活かすことが出来ている。今後お願いしたい。

※今まで以上に、センターでの取り組みや支援方法を家庭と併行通園のこども園等と共有し確認し合いながら支援できる方法を考えています。貴園のご意見を伺いたいと思います。

- ・ 行事（運動会や発表会等）のある月のおひさまの登園サイクルについて崩さない方が良い場合もある。特に練習前半は内容が変わる事が多く、待ち時間も長くなる。行事の参加のための登園スタイル等を保護者に伝える前に児発と園で打合せが出来ると良かった。
- ・ おひさまと園との活動の違いがあるので、活動のねらいや通園児の年間計画・月の計画を共有していけるとより支援の内容や援助方法を知るきっかけになると感じた。
- ・ おひさまでの支援環境や活動と園での集団活動の有効面を相互に活かせる方法や手立て、また子どもの理解を引き続き学べたらと思う。
- ・ 気になる子に対して個人記録を記入している。併行通園している子に対してセンターで記入している記録を共有したり、個別で行っている様子等を見学したりできたら良いと思う。
- ・ 修善寺東こども園は、併設していることを強みとし、常に情報共有をしてもらっている。今後も引き続き支援方法を共有したり、園での様子を伝え合ったりして進めていきたい。

連絡ファイルについて

- ・ 連絡ファイルの取り扱い方が少し難しかった。保護者が目を通すため、日誌のままだときつく感じてしまうのではないかと心配で、書き方が難しかった。簡単な専用様式があったほうがよいと思う。例えば、おひさまでの目標に対しておひさまではこんなこと、園ではこんなことをした等、週末に家庭から一言コメントを頂いてもよいのかもしれない。又、毎日の日誌のようなものではなく、連絡会の時に同じ様式を使って、今行っている支援内容を記入して持ち寄り、それを基に話し合っ保護者に伝えるくらいでもよいのではないかと意見もあった。
- ・ 連絡ファイルの始める時期や個によって必要性が変わってくるのか教えてもらえると助かる。併行通園児の成長した部分が見られたので連携ファイルを通してより連携が深まるのではないかと感じた。

令和7年度併行通園児連絡会の開催について、以下の①から④までに当てはまる箇所に1つ○をご記入ください。

- ① 令和6年度と同様に開催を希望する（年3回+勉強会）
- ② 年4回～5回程度を希望する
- ③ 毎月1回の開催を希望する
- ④ その他（個によっては、年3回ではなく、もう少し多く話を聞きたいということもあるかもしれない。）